

— 會員通信 —

○ 岩本由輝會員

-----

共通課題については、今年のテーマで少くとももう一年やるべしとは思いますが、今年のような報告者の選択ではどうにもなりません。まず何よりも近代都市の歴史的評価についての報告が欠けていたのが大きな欠陥でした。単に現在の都市と農村との関係をいかに数字で結びつけたって何も出て来ないはずで、その意味で近代都市の形成を農村の都市化という形で追求する必要があります。その場合、近世段階ですらに拡散、分化していた共同体の諸機能が、近代においてどのように改編されて行ったかを、例えば労働組織、水利組織、林野利用組織、同族組織、祭祀組織等についてみただけで、それを総合する形で「近代日本の都市と農村」を論じなければ意味がないと思います。そうすれば、これまで必ずしも十分に論議のつくされなかった近代以前の農村と近代農村の差違もおのずと明確になってくるでしょう。とにかく自動車の普及と台数とか買物を町場とするか、地元とするかなどという現象から都市と農村の関係をみても何も出て来ないはずで、こうしたことをいざ「研究通信」の原稿としてお送りしようと思いません。なお、研究会は日曜日ということでもないし山形からは出かけられません。必ず出席できるわけではありませんが、その点、御留意下さい。

○牧野市朗会員

第二一回大会の共通課題は例年通り本年度の継続がよいと思います。

しかし、本年度の大会の報告あるいは共同討議にみられたように、この課題は非常に広範囲なまた多岐にわたる諸問題をかゝっており、大会をもつ前に三、四回の研究会によって、問題になる若干の柱を用意する必要があるかと思えます。

その研究会は宿題委員会の方を中心にして行なわれるかと思いますが、できることなら、その論議の主要部分、あるいは柱といったようなものを夏休前の研究通信に掲載していただき、それを参照にして大会の報告者の募集、または事務局より依頼されたら、いかがでしょうか？ これは事務局にとって大変な仕事かと思われませんが……。

そして、大会当日、共同討議に入る前に、鎌倉大会のときのように、地方会員、一般会員のために研究通信に記載した研究会で問題になった柱を整理して報告していただけたら、討論の展開に役立つのではないかと思います。

研究会はやはり在京委員の方にお願ひするしかないと思えます。御手数数のことと存じますが。

木枯しが吹きだすと寒さによる緊張のためか、学内が騒然としてきて落着かない空気に一変し、憂鬱な毎日が続きだします。なお、来年度の大会は志摩郡「合歓の郷」を予定して交渉を進めておりますが、東北、関東からは多少時間がかかる（名古屋から二時間余）のでいささか案じております。

○島田隆会員

(1)「第二一回の共通課題」 第二〇回の継続でよろしいと思

ます。但し来年は「日本社会における村落と都市」、これに副題をつけて、焦点をさぼるようにはどうかと思います。第二〇回大会では課題を追求するための、いわば模索的な問題提起がなされたと思います。そこでは、現段階（布施、岩城報告、その他自由報告）、現在と戦前との比較（戒野報告）、戦前長い時期にわたる村との関連について柳田説の理解（中井報告）、というように時期としては一応出そろった感があります。しかし何しろ各報告がまえられた村落や都市の構造概念がたいへんくいちがっており、また村落や都市が存在する各時代の全体像の規定がはっきりつかめませんでした。またこのことを理解するための個別実証の結果が充分出されなかったこともあります。したがって各報告にいろいろ註文をつけても、そのすべてをうまく整理しにくい状況でした。これは、あるいはテーマがあまりに広汎すぎたからだと思いますが、初年度として問題を捨うという視点に立てば止むを得ないでしょう。したがって来年度は同一課題で、但し、焦点的な問題を立てて、それを副題で表現するか、又は同一趣旨のテーマで限定された主題を設定してはどうかと思います。そのいずれにしても「村落の都市化」とか、「各時代の村落と都市の構造関連」とかです。

(2)「今後の研究会の実施方法」 内容的には今年の御報告をふまえて、村落、都市の社会構造の性格規定、各段階を追って、

その変化などが焦点になると思います。

(3)「第九集の原稿依頼」 まず、今年度の御報告がほしいと思います。あまりに表が多ければ取捨して頂いて、その分は本文で充分に表現して頂きたいです。学界動向の「歴史」の部分が二年間欠けていますので是非ほしいと思います。